



問 新型インフルエンザの対応は 答 町民の健康第一を考えた対策をする

大久保 帝二 議員

問 五霞町における新型インフルエンザの感染状況とその対応は。

町長 7月24日付、役場庁舎内に新型インフルエンザ対策本部を設置し、感染予防の啓発や情報の提供、マスク等の備蓄、各公共施設へ消毒液を設置するなどの対策を講じてきました。9月から感染者が出始め、中学校、西小学校とも10月末から11月上旬にかけて学校閉鎖、12月に入り、東小学校でも感染者が出て、学年閉鎖と拡大傾向に歯止めがかかりません。このような状況下、町民文化祭・ふれあい祭りをやむを得ず中止させていただきました。また、ワクチン接種優先対象者のうち、妊婦や1歳から中学3年生の方に対しては、少子化対策の一環として、町単独で助成措置を行っております。今後も町民の健康第一に考えた対策に努めてまいります。

問 管内の感染状況は。
健康福祉課長 古河保健所管内に八つの指定医療機

関があります。一週間の間にインフルエンザと診断された患者数を八つの医療機関で割った数値が流行指数です。流行情報の直近の数値ですが、11月23日から11月29日までの管内の指数は前回の31・25から今回は3・87減っております。

問 小中学校の感染状況とその対応は。

教育次長 二学期早々中学校の学級内で2名感染者が発生したため、学級閉鎖の処置をとりました。その後も、感染者が拡大し、月末には中学校、西小学校とも学校閉鎖の措置をとりました。このような状況の中、青少年の主張大会も児童生徒が一同に会することから延期とし、実施については、検討させていただくことにしました。続いて、学校の対応策ですが、各学校の養護教諭と教育委員会、学校医の指導をあおぎ、二学期早々保護者の皆さんに新型インフルエンザへの対応に関する文書を配布し周知しました。

また、各学校では、うがい、手洗いの徹底、更に各クラスに消毒液を配布しました。

問 町の住宅耐震への取り組みは 答 現状を把握し、耐震診断事業を提案していきます

問 授業時数等の確保は。教育次長 学校閉鎖等による授業時間の不足については、毎日の授業時間を1時間ずつ増やして不足を補充しています。二学期の学習内容は学期内に補える見込みです。

問 一般住宅の耐震化のための対象物件の現状は。町長 対象物件につきましては、昭和56年5月以前、旧耐震基準により建設された木造住宅が、対象となります。棟数は、固定資産課税台帳で対象物件の調査を行い、約1千5百棟が抽出されております。続いて耐震化制度ですが、五霞町でも防災の日等には地震を想定した避難訓練も行っております。こうした状況下で、全国的な耐震化の状況を考慮して、町としても今回の補正予算に、耐震診断事業を提案させていただきます。

建設環境課長 平成21年1月1日現在の固定資産台

帳から洗い出しを行っております。町全体の木造住宅数2千9百87棟、この中で、以前の建築物が専用住宅さらには併用住宅合わせて千4百87棟という状況です。

【その他の質問】

問 災害時の弱者への対応について。

町長 平成20年7月に、五霞町地域防災計画を策定いたしました。町内におきましても、核家族、少子高齢化が進み、一人暮らしや寝たきりの高齢者、障害者等のいわゆる災害弱者が増えつつあります。これらの災害時の要援護者に配慮したきめ細かな災害時の援護者支援マニュアルを作成いたしました。

問 耐震化制度の導入は。建設環境課長 耐震制度ですが、国の本年度の第一次補正予算におきまして、市町村で行う耐震改修促進計画を策定するとともに、木造住宅の耐震診断士を派遣し、今年度30棟分補正予算に計上させていただきます。診断費用ですが、3万2千円からあります。そのうち2千円について個人負担をしていただき、3万円が国